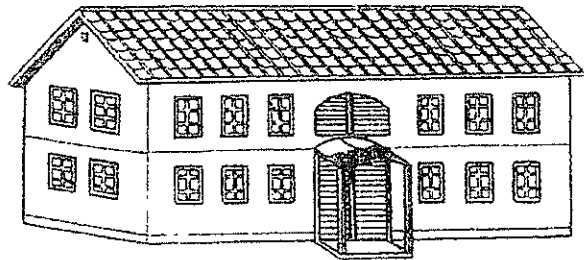


## 第2章 明治～昭和20年(戦前)

年	できごと
明治4年(1871)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一・一 行政は大区小区の制度を実施、宮原村、和庄村、莊山田村は広島県第三区第八小区となり、用係一名大組総代各村一名をおいて村治する。④</li> <li>一・一 呉町の称呼は廃し宮原村にもどる。</li> </ul>
明治5年(1872)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2・27 兵部省廃止。</li> <li>2・28 陸軍省、海軍省設置。①</li> <li>6・8 宮原村に日新館(現・宮原小学校)設立。① 宮原村花久堂正円寺内に教場。②</li> <li>一・一 宮原村の人口4,961人、戸数1,026戸。④</li> <li>一・一 青盛敬篤、第18区戸長副を拝命。⑨</li> </ul>
明治6年(1873)	<ul style="list-style-type: none"> <li>8・28 宮原村医師の青盛松斎・宮田玄格・会沢芳策ら、県より医学私舎・騰雲館設立の認可を受ける。①</li> </ul> <div data-bbox="699 958 1326 1514" data-label="Image"> <p>醫學私舎設立願</p> <p>一、今般部等、初超意、遵守任榮給社、      一、持、私舎設立任廣奉任、      一、館号騰雲館、      一、請、別、      一、右、相、請、      明治六年八月</p> <p>青盛松斎 宮田玄格 会沢芳策</p> <p>医学私舎設立願 明治6年8月</p> </div>
明治6年(1873)	<ul style="list-style-type: none"> <li>8・一 青盛敬篤、副戸長を拝命する。⑨</li> </ul>
明治8年(1875)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4・一 日新館、宮原下等小学校と改称。②</li> <li>12・一 青盛敬篤、第2大区三級用掛、宮原村戸長、検疫委員、第29区小学校学務委員なども拝命。⑨</li> </ul>
明治9年(1876)	<ul style="list-style-type: none"> <li>8・31 東海及び西海鎮守府を設置することを決定。⑫</li> </ul>
明治10(1877)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一・一 用係以下を廃し小区に戸長一名、各村に副戸長一名を置き、事務所を莊山田に設けた。④</li> <li>7・一 広島警察署宮原分署が設置される。(明治14・8宮原交番所と改称) ①</li> </ul>

- 明治11 (1878) 一・一 郡区町村編成法の公布とともに大区小区の制を廃し  
公選をもって各村に戸長を置いた。④
- 明治15 (1882) 4・一 小学校、宮原初等中等小学校と改称。②
- 明治16 (1883) 2・2 海軍水路局員肝付兼行海軍少佐ら、西海鎮守府の候  
補地を求めて東京を出発。呉には尾道を経て2月10  
日から調査。(7月25日まで滞在) ①
- 4・一 小学校、城山に4間(7, 2<sup>間</sup>) 14間(25, 2<sup>間</sup>)  
の洋風2階建て校舎1棟建設して移転。②

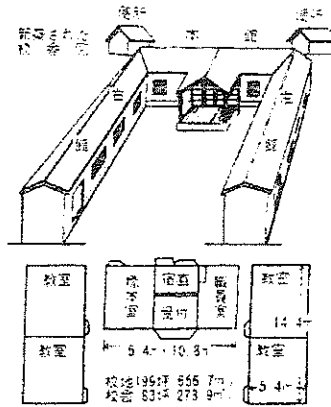
独立校舎を新築する



②

- 明治17 (1884) 7・一 海軍進出により第1回土地買い上げ始る。以下18  
年第2回買い上げ、21年土地買い上げ終了。買い上  
げ地内の1,023戸移転。宮原村内他地へ385戸、  
川原石へ182戸など。
- 7・14 有栖川威仁親王、川村純義海軍卿、仁礼景範海軍少  
将、横山資紀海軍大輔呉港を視察し、海軍用地買収に  
着手。①
- 明治18 (1885) 一・一 小学校、洋式体操器具を購入。②  
(球竿2、巫鈴8、棍棒14、ダンベラ4)
- 明治19 (1886) 4・一 小学校、宮原簡易小学校と改称。(3年課程) ②
- 5・4 第二海軍区鎮守府の位置を安芸郡呉港に説定。①
- 8・15 宮原村の海軍用地内の住居立ち退き期限日。このこ  
ろ旧呉町の町並みも消滅。①

10・一 小学校、宮原村字中神原へ城山より移転。②



中神原の新校舎

②

明治20 (1887)

- 一・一 呉～警固屋間道路（宮原上道路）竣工。①
- 5・一 宮原村字亀山の亀山神社を和庄村内の現在の地に移転。（昭和16・10・1県社になる）①
- 一・一 この頃から宮原村への転入相次ぎ小学校、正円寺内を一時借り受け分教場を設ける。②



呉鎮守府建設状況（汽車で土石を運ぶ様子）（宮原村）  
明治20年ころ

①

明治21 (1888)

4・25 「市制・町村制」が公布。宮原村となる。①

明治22 (1889)

5・一 町村制施行により、青盛敬篤、宮原村村長に当選する。以後満期改選毎に当選し、呉市制まで続く。⑨

6・22 呉鎮守府初代司令長官中牟田倉之助赴任。①

7・1 呉鎮守府開庁。同時に海兵団・呉海軍病院なども業務開始。①

明治23 (1890)

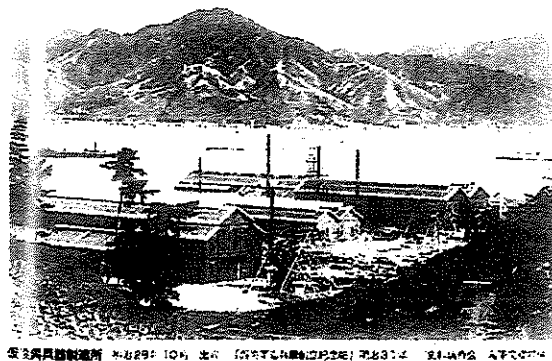
2・20 海軍用地買収命令、22年度半ばまでに警固屋、宮原地内4万9,300坪買収される。③

明治23 (1890)

4・一 呉鎮守府水道給水開始。①

4・21 明治天皇の行幸を得て呉鎮守府開庁式挙行。①

- 8・31 呉海軍将校子弟の教育にあたる私立淡水小学校開校。  
(大正8・4・1市に移管され、清水通尋常小学校(現・和庄小学校)となる。)
- ・— 神原組設立。明治29・1水野組(現・五洋建設)と改称。①
- 明治24(1891) 1・— 小学校では勅語奉読式を行う。②  
4・1 小学校、宮原尋常小学校と改称。②  
4・11 呉鎮守府造船部第一船渠開渠式。(明治22・4・1起工)①
- 明治25(1892) 3・3 呉鎮守府造船部第一船台および造船工場竣工。(明治24・6・9起工)①
- 明治26(1893) 5・— 呉鎮守府兵器部が廃止され、武庫、水雷庫、兵器工場を設置。①
- 明治28(1895) 3・9 正岡子規、海軍従軍記者古嶋一雄を見送るため来呉。呉にちなむ三句を残す。(子規全集)①  
・呉かあらぬ 春の裾山 灯をともす  
・大船や 波あたたかに 鷗浮く  
・のどかさや 擔端の山のむぎばたけ
- 6・18 仮設呉兵器製造所条例制定。(明治28・12ころ竣工、明治29・4・1仮呉兵器製造所と改称)①

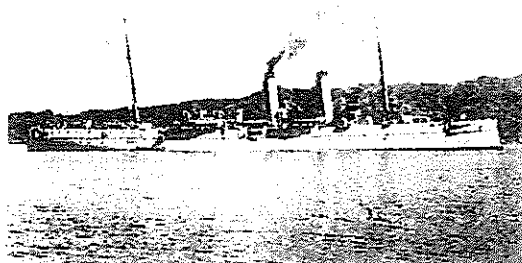


仮設呉兵器製造所

⑤

- 10・1 「宮原青年会」設立。②
- 明治30(1897) 5・21 仮呉兵器製造所を主体にして呉海軍造兵廠設立。①  
10・8 呉鎮守府造船部を主体にして呉海軍造船廠設立。①

10・27 呉海軍造船廠において最初の軍艦「宮古」(通報艦)進水。(明27・5・26起工、明32・3・1竣工)  
①



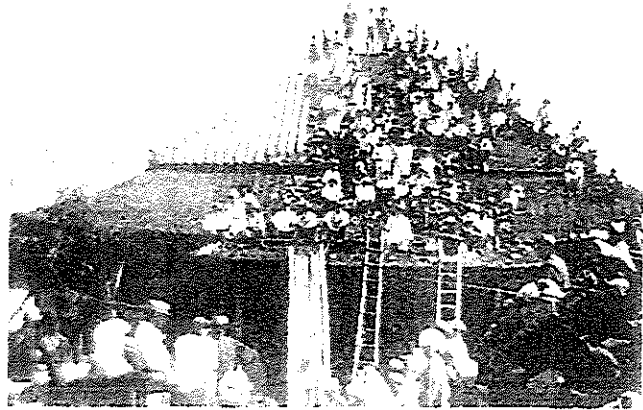
呉海軍工廠製造の第一艦・  
通報艦宮古

⑦

- |             |                                                                                                                               |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 明治31 (1898) | 12・14 呉海軍造船廠において第二船渠開渠式。(明27・6・28起工) ①                                                                                        |
| 明治35 (1902) | <p>—・— 4カ年計画で製鋼部建設。⑫</p> <p>9・— 小学校の校地を現在地の字脊越田に校舎一部移転さらに平屋建1棟を新增築。②</p> <p>10・1 宮原村、莊山田村、和庄町、二川町が合併し呉市誕生。①人工60,113名⑫</p>     |
| 明治36 (1903) | <p>4・1 宮原小、呉第六尋常小学校と改称。②</p> <p>11・10 呉海軍造船廠と呉海軍造兵廠が合併し、呉海軍工廠設立。廠内に造兵部・造船部・造機部・会計部・製鋼部・需品庫を設置。①</p> <p>12・27 呉線・呉～広島間開通。①</p> |
| 明治37 (1904) | 11・— 宮小、現在地へ移転。(以後再三校舎増築がある) ⑬                                                                                                |
| 明治38 (1905) | <p>1・21 呉海軍工廠において駆逐艦「吹雪」進水。①</p> <p>6・2 芸予地震があり、市内は3日間にわたり灯り点らず。②</p> <p>12・26 1万3,750排水トンの巡洋艦「筑波」進水。⑫</p>                    |
| 明治39 (1906) | <p>3・10 呉工廠において第二船台竣工。①</p> <p>4・9 戦艦「生駒」進水。⑫</p>                                                                             |
| 明治40 (1907) | <p>4・— 小学校、神原尋常高等小学校と改称。②</p> <p>4・15 呉工廠において最初戦艦「安芸」進水。⑫</p>                                                                 |

	5・31	芸予地震の被害のため従来の呉鎮守府庁舎を改築し 経理部とし、新たに呉鎮守府庁舎を建設、竣工。①
	11・19	宮原下道路第一期工事（清水上道一下室瀬）竣工。（明 治39・7・7起工）①
明治41（1908）	10・—	小学校、神原尋常小学校と改称。②
	12・—	宮小、校地上段北方の旧校舎を解体売却、5間に8 間の2階建て46坪を建築。②
明治42（1909）	10・31	県下初の市街電車開通。⑫
明治43（1910）	1・15	呉海軍工廠造兵部を廃止し、砲煩部・水雷部設置。 ①
	9・10	神原尋常小学校内に坪内教室始まる。②
明治44（1911）	3・30	2万トンを超える戦艦「摂津」進水。⑫
	4・1	坪内尋常小学校（現・坪内小学校）開校。①
	7・5	坪内小、父兄会創立。③
明治45（1912）	3・11	呉海軍工廠において第三船渠と造船船渠開渠式。①
	4・—	宮原小、神原尋常高等小学校と改称。（高等科2年課 程併置②
大正3年（1914）	—・—	坪内小、二部授業廃止。③
	3・28	世界最初の3万トン級戦艦「扶桑」進水。①
大正5年（1916）	8・—	小学校二部授業解消を目標に学校設備調査委員会発 足。（のち学制調査委員会）①
大正6年（1917）	3・—	宮原下道路第二期工事（中室瀬～赤羽根間）竣工。（明 治44・8起工）①
大正7年（1918）	4・1	呉軍港水道より余水の分与を受け、呉市水道給水開 始。（大正8・4・31通水式）①
	8・11	宮原区民大会を開催し、米価高騰反対を決議。⑤
	11・—	呉海軍工廠職工教習所開設。（昭和15・4・5工員 養成所と改称）①
大正8年（1919）	4・21	呉鎮守府開設30年祝賀会開催。以来この日を呉市 記念日（呉デー）と定める。①
大正8年（1919）	4・—	神原小学校改築のため同小校区域より坪小へ一部児 童移籍。（大正11・3復帰）。③
	11・9	世界最初の16インチ砲をつんだ戦艦「長門」進水。①

- 大正9年(1920) 12・1 官原村神原に巡査派出所設置。⑭
- 大正10(1921) 12・1 呉工廠の拡張による埋め立てのため烏小島を取り壊し平坦地となる。(一石一字塔は神原の観音堂へ)。①
- 1・1 正円寺再建本堂瓦おろしが行われる。⑤



正円寺再建本堂瓦おろし(宮原通5丁目) 大正10年(宇原香子氏提供)

⑤

- 大正11(1922) 1・23 呉海軍工廠第1、2門～3門間道路、昼間の一般公衆通行許可試行、同年8月1日より許可、昭和6年6月禁止。⑤
- 2・12 北迫町に呉市最初の市営住宅3戸竣工。同年中に内神町に40戸、大字宮原村に21戸など完成。①
- 大正12(1923) 4・1 呉工廠に砲弾実験部・魚雷実験部・電気実験部・総務部・医務部設置。①
- 4・5 宮原小内に女子補習科が併設される。(高等科2年課程を卒業した女子生徒の内希望者を収容)②
- 11・1 海軍共済組合呉病院宮原診療所開設。⑤
- 12・9 神原公設市場開設。昭和3年度閉鎖。⑤
- 大正13(1924) 4・16 呉市立中学校の県立移管にともない、今西通の元海城中学校跡仮校舎において新たに呉市立中学校(現・広島県立呉宮原高等学校)開校式。①
- 5・10 ワシントン軍縮の第三次職工整理により、呉海軍工廠1,203人、広工廠102人退廠。①
- 5・15 大字宮原村に宮原通・室瀬町・神原町の町名施行。⑤
- 大正14(1925) 2・22 宮原小に「父兄会」が組織される。②
- 4・22 世界最初の本格的空母「赤城」進水。①
- 昭和元年(1926) 3・25 宮原信用組合設立登記。昭和19・4・1呉信用組

合に吸収合併。⑤

4・17 呉市立実科高等女学校が呉市立高等女学校と改称したのにもない、神原尋常高等小学校内に新たに呉市立実科高等女学校開校。昭和18・6・23呉市立宮原高等女学校と改称。①

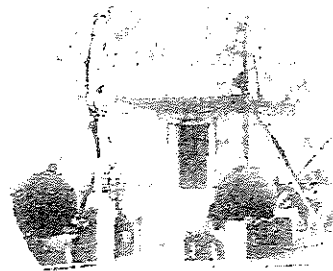
7・1 青年訓練所令により神原・長迫・岩方・荒神町・両城・阿賀・吉浦・警固屋・広・焼山・本庄南などの各小学校に青年訓練所付設。①

9・30 呉二河高等小学校内より呉市立中学校、現在地（現・宮原高校）に移転。①

昭和2年（1927）

6・4 宮原小で平和の使節アメリカ人形メリーの歓迎式がある。②

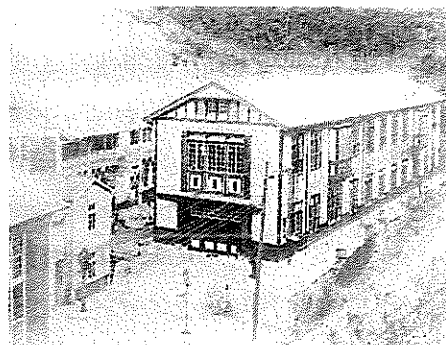
11・3 宮原小で御真影奉安庫落成式。②



②

昭和3年（1928）

4・23 横須賀工廠より呉海軍工廠に海軍技手養成所転入開所式。昭和17・4・1第一海軍技手養成所と改称。①



①

海軍技手養成所 校舎全景 昭和4年ころ

10・18 坪内小で奉安庫建立、御真影奉載。③

昭和4年（1929）

3・20 第1次水道拡張工事竣工。（昭3・4・5起工）4月より宮原地区に給水開始。①

4・1 呉市立中学校、県立に移管し、広島県立呉第二中学校と改称する。①



昭和5年(1930)

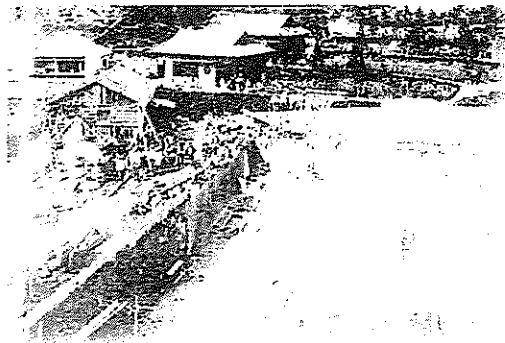
9・17 坪内小、火災発生、校舎大部分焼失。(4年以下二部授業、藤原説教所借用し教室に利用) ③

11・16 呉海軍工廠で第4船渠竣工式。①

3・21 坪内小校舎落成式③

4・22 ワシントン海軍条約調印後3,735名職工職を失う。  
⑫

7・10 宮原(神原)プール竣工。②  
神原遊園地開園式。⑧



宮原プールの建設(神原)

②

8・31 宮原観音堂、昨年末から信者、講人の浄財数千円で改装中、31日境内で落成式、餅撒きなどで賑わう。参詣人多数。⑧

9・7 宮原プールで県下学童競泳大会(中国新聞社)を開催する。②

昭和6年(1931)

8・23 坪内小、校友会発会式。③

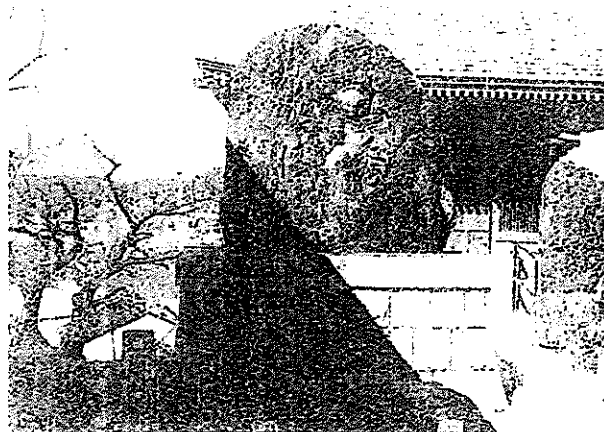
10・15 電気溶接を使用した敷設艦「八重山」進水。⑫

昭和8年(1933)

6・— 宮原小、大講堂が完成。⑬

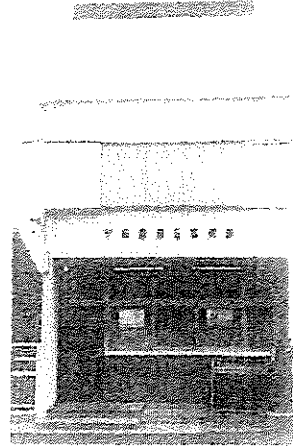
昭和9年(1934)

—・— 藤田尚徳司令長官、水野貴族院議員の乞いを入れて石碑の碑文として「山秀水清」を揮毫。⑧



昭和10 (1935)

- 6・11 呉宮原三郵便局開局。(平7・3宮原3丁目11-1に移転) ⑩



呉宮原三郵便局 ②

- 7・1 青年学校令により神原・長迫・岩方・荒神町・両城・阿賀・警固屋・吉浦・公園通・本通・阿賀実科女子・警固屋実科女子・昭和西・昭和東・広の各青年学校設置。
- 8・1 呉海軍工廠に火工部設置。①
- 8・23 呉市宮原通5丁目2番地に呉銀行宮原通支店開店。(広島銀行宮原出張所の前身) ⑩
- 11・— 高地部建築絶対禁止となる。③
- 12・24 坪内小へ二宮尊徳像設置。(鈴木徳之助氏寄贈) ③



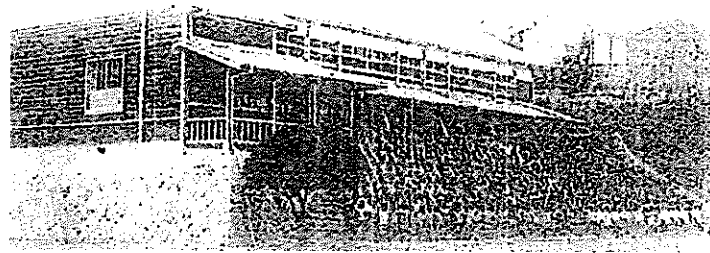
③

昭和11 (1936)

- 5・27 第1回軍港まつり、海軍記念日から5日間盛大に開催。①
- ・— この年から翌年にかけて警固屋・宮原地区を中心に腸チフス流行、患者1,493人発生。⑫

昭和13(1938)

7・10 坪内小講堂完成落成式。(現・プールのところ) ③



昭和13年秋坪内小講堂落成式の様子

③

昭和14(1939)

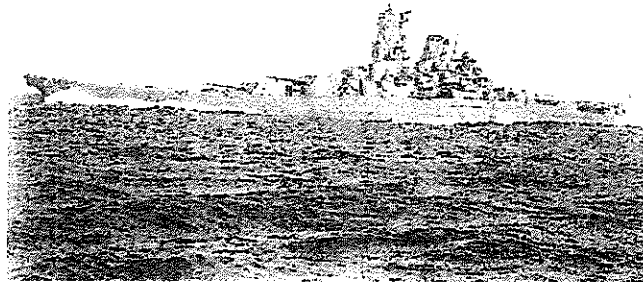
2・2 はじめて真冬の断水となる。この夏も断続的に給水制限が続く。①

昭和15(1940)

3・18 切符制による米・砂糖の配給実施。①

4・一 呉海軍工廠において特殊潜航艇第1号完成。①

8・8 呉海軍工廠において戦艦「大和」進水式。(16・12・16竣工式) ①

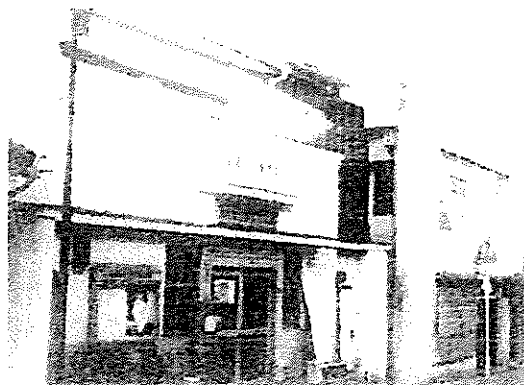


大和：昭和16年10月30日、宿毛湾で全力公試中の姿

①

11・一 宮原13丁目に工員養成所寄宿舍、忠誠寮竣工。⑬

12・11 呉宮原十一郵便局開局。(宮原11丁目3-13)



②

呉宮原十一郵便局

12・20 宮原小で二宮尊徳像除幕式開催。②



②

昭和16 (1941)

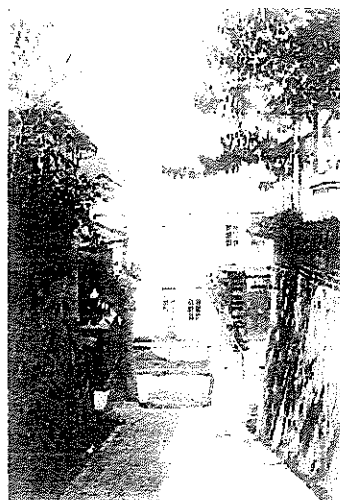
1・29 防諜のため官公庁・学校などの建物の写真撮影、絵画作成禁止。①

4・1 呉市宮原国民学校と改称。②

4・1 呉市坪内国民学校と改称。③

昭和17 (1942)

4・一 広島県立呉第二中学校に広島県立呉夜間中学校付設。(5年制) ①



広島県立呉第二中学校 (宮原通3丁目) 昭和18年ころ

①

昭和18 (1943)

4・24 宮原小で「宮原防諜団」を結成。②

8・1 市内国民学校児童による銃後奉仕団結成式。(参加児童550人、男子は2～12日、女子は17～21日まで市内の軍需工場に配置。①

昭和19 (1944)

4・1 呉信用金庫宮原支店営業開始。⑩

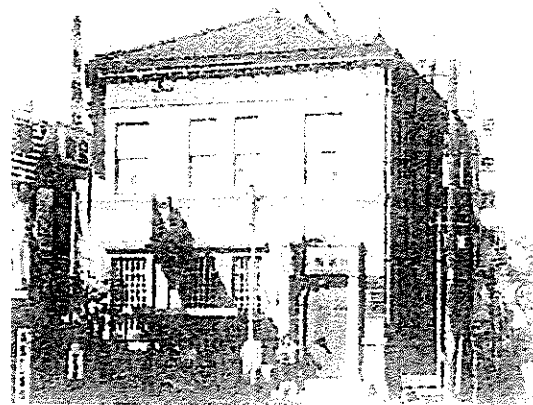
5・1 呉地区において、女子挺身隊結成。①

8・6 宮原小学校で北校舎出火全焼。②

昭和20(1945)

3・31 学童集団疎開の第一陣として宮原小・坪内小が世羅郡の疎開先へ出発。②

5・1 (新)芸備銀行宮原通支店として開店(広島銀行宮原出張所の前身)⑩



6・一 第2次集団疎開児童出発。③

7・1 B29約152機、夜半より翌3日の早朝にかけて呉市を空襲、市街地の大半を焼失。①

7・1 坪内国民学校空襲火災により焼失。③

8・15 終戦となる。

9・8 呉市の疎開児童の復帰開始。①

9・18 枕崎台風により町内各所被害甚大。宮原地区犠牲者309名②

10・19 坪内国民学校、宮原国民学校の6教室借用、授業開始。③

11・30 海軍官制の廃止にともない、呉鎮守府閉庁。①